

静かにゆるやかに
人の心に染み入る
風景や温もりを残したい・・・
空海が求め
歩いたように

ほっ。

Vol. 4
2005

四国いやしのみちづくりに関する 徳島県の支援制度

徳島県地域にぎわい創出補助金(概要)

いやし空間づくりを促進するため、次の施設整備に
要する経費に対し補助します。(用地取得費を除く)

- 1.公衆トイレ
- 2.休憩所、ベンチ及び植栽
- 3.標識類
- 4.市町村道の一部改良(歩行空間の改善に限る)

事業規模: 補助対象事業費が100万円以上

補助率: 実施市町村の財政力に応じて、補助対象経費の
1/2から1/4以内。

補助限度額: 補助対象事業費1億円以上の事業 5,000万円
補助対象事業費1億円未満の事業 1,000万円

■問い合わせ先
徳島県ふるさと振興課

徳島県いやし空間づくり促進事業費補助金

いやし空間づくりを促進するための次の事業に要する
経費に対し補助します。

- 1.地域住民が行う歩道整備等に必要な材料支給
- 2.ルートマップ等の作成

補助率: 当該経費の1/2以内。

補助額: 1事業当たりの補助限度額は、100万円。
ただし、複数年度にわたって事業を実施する場合は、
3年以内に実施するものとし、期間内の
補助限度額は300万円(単年度につき100万円)。

■問い合わせ先
徳島県観光交流課



徳島県商工労働部交流推進局観光交流課

770-8570 徳島市万代町1丁目1番地

Tel:088-621-2335

Fax:088-621-2851



四国いやしのみちづくり事業とは

へんろみちや四国のみちを基本とし、周辺の歴史文化資源をつないだ歩く道づくりを県民と行政が協働で行い、地域の歴史・文化、自然等の再認識と、情報発信により、交流促進及び地域の活性化を推進することを目的としています。そして、四国いやしのみちには、5つの条件があります。

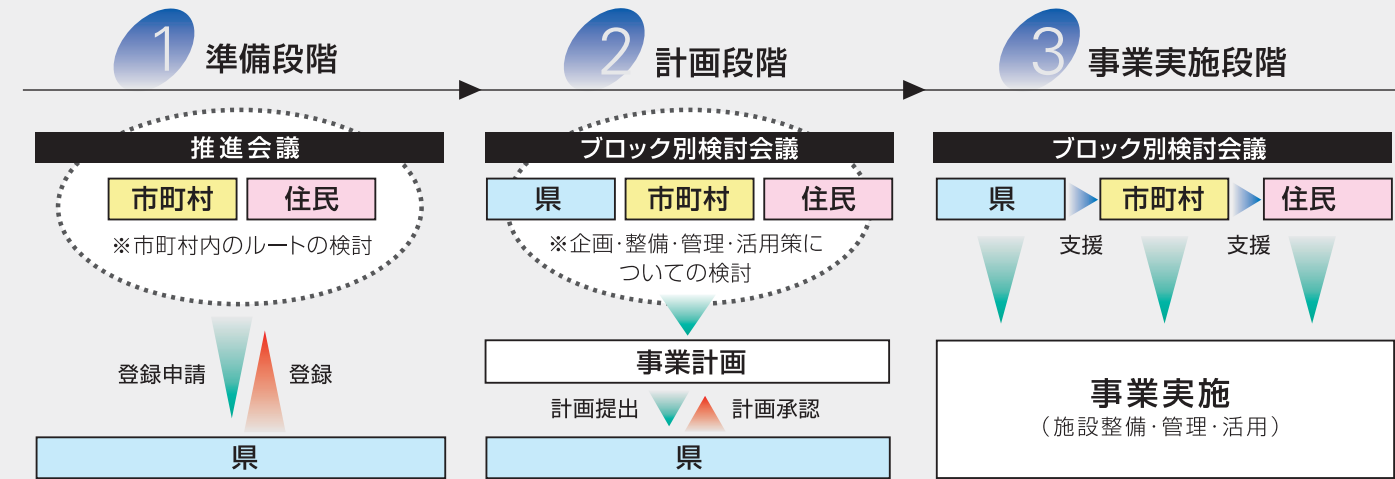
四国いやしのみち5つの条件

- 1 県民と行政が協働で進めるみちづくりであること
- 2 訪れる人と地域住民が相互に価値を持つみちであること
- 3 持続性のあるみちであること
- 4 各ブロック(区間)に「テーマ」や「もてなし」を持つこと
- 5 連続性があり、四国全体への発展性を持つこと

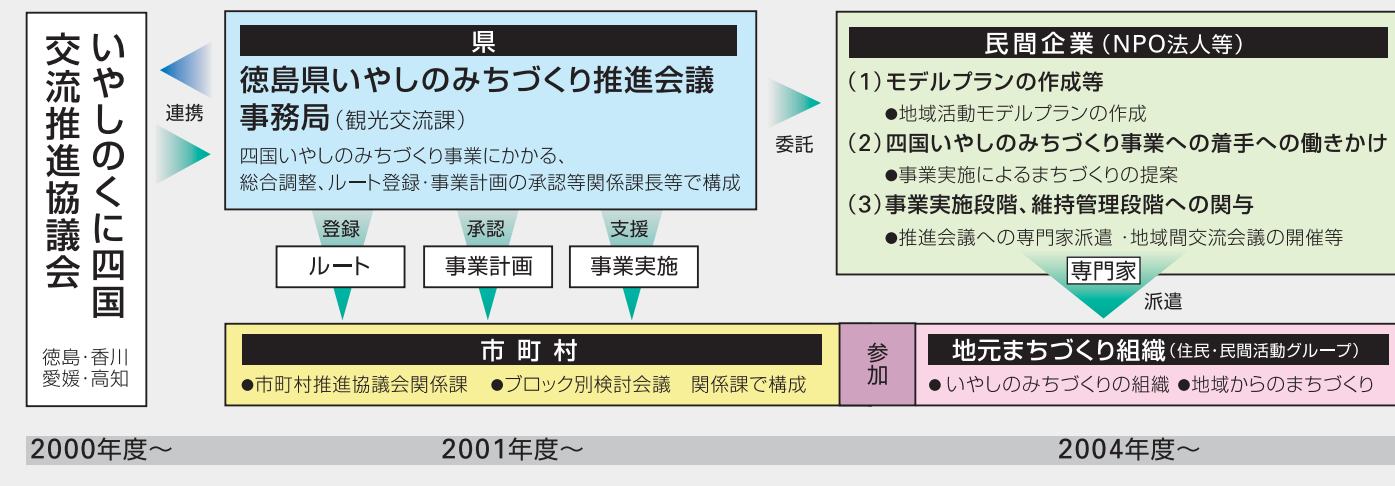


◎四国いやしのみちづくり事業の流れ

四国いやしのみちづくり事業は、①準備段階から②計画段階、③事業実施段階まで、地域住民と行政の協働により実施されています。



◎四国いやしのみちづくり事業の取り組みスキーム



現在、「四国いやしのみち」に登録されている4つの地域



第1号登録/吉野川市
四国三郎をまたぐ、最後まで残った空海の道



第3号登録/上板町
かみいた 路、道、未知和(なごみ)ロード



第2号登録/神山町
衛門三郎を偲ぶ、最後まで残った空海の道



第4号登録/勝浦町
みかん・もてなし・ふれあいロード

「四国いやしのみちづくり」は、静かに、そしてゆるやかに、「人と人」、「人ともの」、「ものごとの」を結びながら、強く、深く浸透していく活動です。



登録4地域の四国いやしのみちづくり活動年譜

	吉野川市	神山町	上板町	勝浦町
2000年(平成12年)	8月 推進会議が始まる			
2001年(平成13年)	6月 第1号登録 ブロック別検討会議が始まる 12月 事業計画決定	10月 推進会議が始まる		
2002年(平成14年)	1月 江川湧水源にトイレと遊歩道整備に着手	3月 第2号登録 7月 ブロック別検討会議が始まる		
2003年(平成15年)	●上記トイレと遊歩道整備が完了 ●JR鴨島駅前に案内板が設置	3月 事業計画決定 ●山道修復、阿野地区のトイレ・休憩所の設置 ●ボランティアによる休憩所の設置などが始まる	1月 推進会議が始まる 7月 第3号登録 9月 ブロック別検討会議が始まる	
2004年(平成16年)			3月 事業計画決定 ●いやしのみちづくり実行委員会発足により、各部会の活発な活動が始まる	2月 推進会議が始まる 3月 第4号登録 6月 ブロック別検討会議が始まる
2005年(平成17年)				3月 事業計画決定 ●活動が開始されます



四国いやしのみちづくり事業を活用した代表的な活動紹介



吉野川市／昔の道標と今の道標

新しい道標の横に、昔の道標を復元しています。これは、歴史的文化遺産の保護にもつながっています。



神山町／石積みボランティア

へんろ道の復元をすることで安全も確保しています。そして石積み工法の伝承にもつながっています。



上板町／いやしのみち沿道の花いっぱい運動

「上板いやしのみちづくり実行委員会」の花づくり部会で花を植えたプランターが、いやしのみちメインルートの沿道に並べられています。沿道の方々のご協力で、いやしのみちづくりPRにもつながっています。



勝浦町／いやしのみちハイキング

一般募集する「いやしのみちハイキング」では、徳島県内外からの市民参加が得られています。ハイキングを通して、またお接待を通して、都市農村交流にもつながっています。



共通:いやしのみちマップ

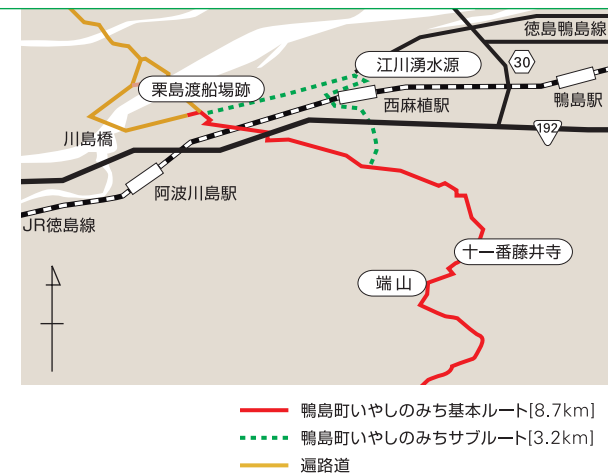
いやしのみちマップは、国土交通省の協力により、現在、第1号登録の吉野川市から第2号登録の神山町へと続いています。いやしのみちルートの案内と同時に地域情報も織り交ぜたコンパクトで優しいマップに仕上がっています。マップを通して、県内の市町村連携に、そして、四国全域の連携へとつながるきっかけにもなります。

推進モデル事例1

第1号登録:
吉野川市の活動紹介(2001年登録)

いやしのみちルート名:

四国三郎をまたぐ、最後まで残った空海の道



— 鴨島町いやしのみち基本ルート[8.7km]
— 鴨島町いやしのみちサブルート[3.2km]
— 遍路道

四国いやしのみちづくり事業を活用した【ものづくり例】と【活動例】



① JR鴨島駅前には、いやしのみち案内板が設置されています。



④ 「遍路ころがし」と言われる最後まで残った空海の道では、神山町と連携した倒木処理作業が行われています。



⑤ 使われなくなった電話ボックスも「いやしのみちマップ」置き場として活躍しています。



② 藤井寺のトイレは、徳島県補助事業により設置されました。



③ 藤井寺門前のへんろ道は国土交通省の補助事業として整備されました。



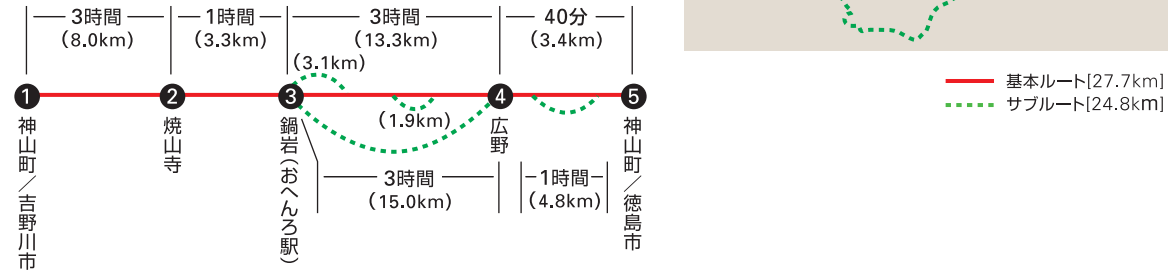
⑥ 古くなった木製ベンチはボランティアによって修理されています。

推進モデル事例2

第2号登録:
 神山町の活動紹介(2002年登録)

いやしのみちルート名:

衛門三郎を偲ぶ、 最後まで残った空海の道



四国いやしのみちづくり事業を活用した【ものづくり例】と【活動例】



① みんなでつくった「いやしのみち休憩所」
 この達成感は参加した人だけの特権です。



② 神山さくら道計画:神山は「道計画」で活動がつながっています。



「神山の峠道計画」のサイン:
 町行政の担当者自らがデザインした
 手作りサインです。



④ みんなで設置した7人掛けの「いやしのみちベンチ」
 7人目の空海の温かい笑顔が周りを包んでくれます。



③ 石積みボランティアでは、地元の高齢者や
 大学生といった、世代を越えた参加を得ています。

推進モデル事例3

第3号登録:
 上板町の活動紹介(2003年登録)

いやしのみちルート名:

かみいた路、道、未知 和(なごみ)ロード

上板では、いやしのみちづくりを契機に、【いやしのみちづくり実行委員会】が発足され、
 地域内における各種団体の横の繋がりが強まりました。



四国いやしのみちづくり事業を活用した【ものづくり例】と【活動例】



① 実行委員会【ベンチ・サイン部会】メンバーによる木製
 ベンチは、ひとつひとつ手作りで仕上げられていきました。



③ 実行委員会【ハイキング部会】メンバーにより「いやしのみちルート」の
 ゴミ拾いが実施されています。



② 手作りベンチ設置を喜ぶ
 実行委員会メンバーみんなちょっと
 誇らしい気分です。



④ いやしのみちハイキングでは、
 沿道での温かいお接待に心とほします。



⑤ いやしのみちルート案内板には、
 みんなが使えるお知らせコーナーが
 付いています。



⑥ 実行委員会【花づくり部会】では、いやしのみち沿道を
 飾る花植えプランターづくりを行っています。

推進モデル事例4

第4号登録:
勝浦町の活動紹介(2004年登録)

いやしのみちルート名:

みかん・もてなし・ふれあいロード

勝浦町では、町内の2寺と11団体が、ブロック別検討会議で、みんなの知恵を出しあいました。

- 神宮寺
- 円城寺
- 生名ロマンの会
- 星光流会
- 婦人会
- 青年会
- 坂本グリーンツーリズム運営委員会
- NPO法人阿波勝浦井戸端塾
- 与川内ホテル村保存会
- 今山農村舞台保存会
- 今山新四国八十八箇所保存会
- 勝浦町役場有志・上勝町
- JAよってネ市(産直市)

四国いやしのみちづくり事業を活用した【ものづくり例】と【活動例】



①へんろ小屋の基礎ができたところです。



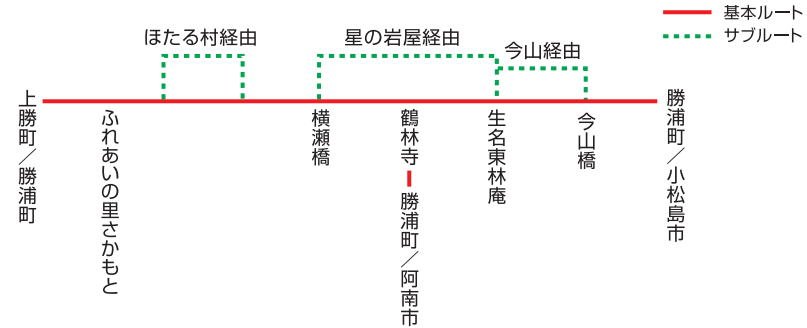
④いやしのみち活動に先駆けて、四国のみちハイキングが実施されました。「いやしのみちハイキング」として定着させたいイベントです。



②へんろ小屋の切り組み作業中です。

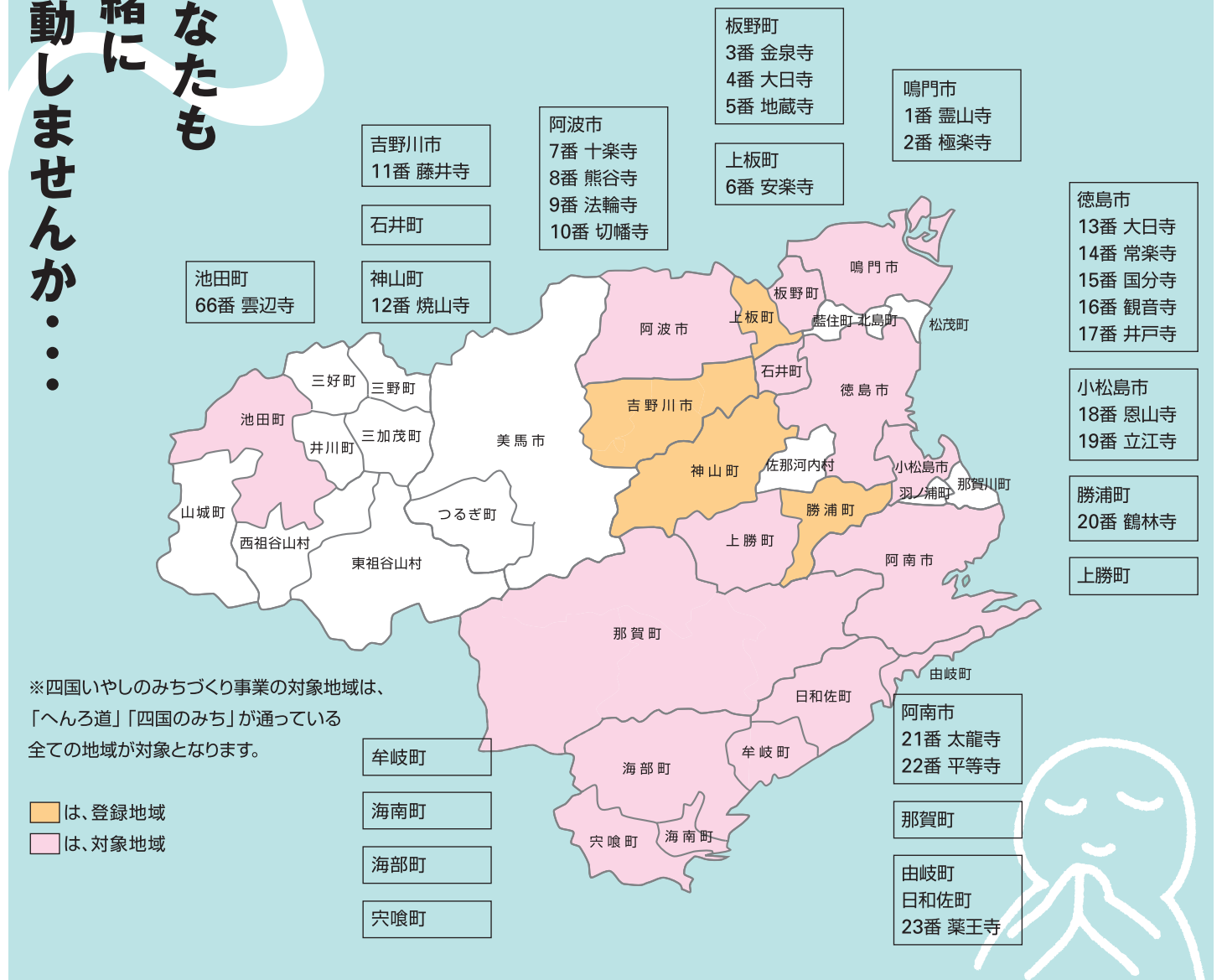


③イラスト案内板です。要所要所に設置していく予定です。



あなたも
一緒に
活動しませんか...

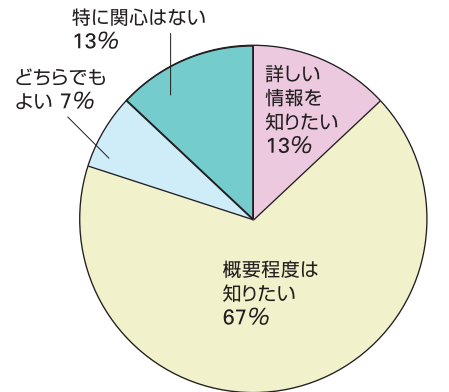
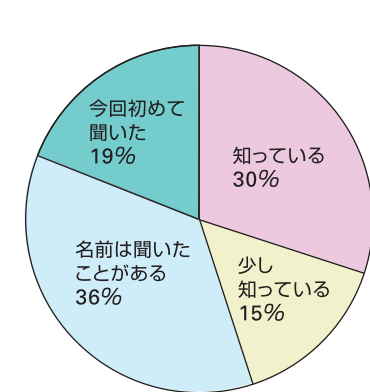
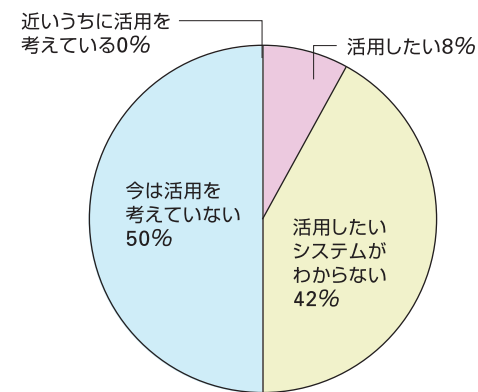
四国いやしのみちづくり事業対象地域の紹介



平成16年度の取り組み-1

未登録地域を対象とした事業関心度アンケート調査結果

平成16年度の取り組みとして、四国いやしのみち未登録地域を対象に、四国いやしのみちづくり事業への関心度アンケートを実施しました。



■調査概要

- 配付先:行政担当課24名・市民団体44名
- 回収数:行政担当課12名・市民団体15名
- 回収率:39.7%
- 設問概要:認知状況・活用希望・詳細情報入手希望
情報交流会参加希望・いやしのみちへのアイデア

いやしのみちへのアイデア(抜粋)

- 四国ブロック、近畿圏とのネットワークはどうなるのか。
- 有償ボランティア、無償ボランティアが混合型になる場合もあると思うが、その点はどうか。
- 広報に力を入れてはどうか。
- 「いやされるため」には、道路の周辺一帯が自然豊かで心地よいものでなければならない。「いやしの道」周辺のごみの不法投棄、放置車輛の一掃にも取り組むべき。

平成16年度の取り組み-2

四国いやしのみちづくり情報交流会の報告

「四国いやしのみちづくり」を浸透させるために、未登録地域関係者や一般市民を対象とした情報交流会が開催されました。

パネルディスカッション意見(抜粋)



■開催概要

日時:2005年3月19日(土) 13:30~16:30
 場所:徳島工芸村2階 会議室
 参加者:パネリスト6名・一般参加者24名・事務局6名
 プログラム:登録4地域の活動報告・パネルディスカッション



総会司会:佐藤幸好



コーディネータ:澤田俊明

四国いやしのみちづくりに思うこと

植田●いやしのみち事業は、「遍路道」「四国のみち」の2つの看板を紹介し、その2つの違いについても十分案内できるものとして活用されるのが望ましい。今後は、登録4地域の連携が必要であると思われる。また、道の管理者がキーポイントになることから、行政担当者もキーマンになる。



パネリスト:植田淳司

滑川●いやしのみち事業が単年度でなく複数年に渡り、小さい事業の積み重ねで動いているという点が、従来の整備事業とは大きく異なる点である。いやしのみちの良いところは、ちょっとした情報交換がこまめに行われており、その連携が活動に繋がっている。また、いやしのみち事業には話し合いの場づくりプロが関わっており、参加者の知恵出しの場が存在しているのも大きな特徴であると思う。



パネリスト:滑川 達



新聞善二

会場からの質問1

いやしのみち事業こそオンリーワン徳島づくりができると思うが、今後の事業拡大は?

植田●いやしのみちづくり事業は、「住民と行政の協働事業」というところに重きを置いている。従って、市町村レベルで、協働できるところから事業を実施している。行政サイド、市民団体サイドの両面から盛り上げていく仕組みを今年度から実施していくこととなった。今年だけで終わることなく、次年度以降も続いていくように、本日まで参加いただいた方々にも、いやしのみち事業について、多くの人に伝えていただけたら幸いである。

栗飯原●計画立案時に発案されたことを細々と続けることが大切である。神山町の場合、計画立案時に「石積みボランティア」という発案がされ、それを検討時から体験を始め、様々な人の参加を得て、現在に繋がっている。また、常に拡大解釈が必要であると思っている。「みち」という構想で、戦略的な目標を持って、関係者を活動に巻き込んで進めることが必要だと思う。神山町の場合、常に「みち」で活動を繋ぐことを意識している。



パネリスト:栗飯原 一

会場からの質問2

今後の登録4地域の活動の方向性は(新聞)

笠木●動き出したところなので、計画書に基づいて、活動を行っていききたい。活動を行う上では、地元と都市住民との交流ができる仕組みについても考えていきたい



パネリスト:笠木義弘



パネリスト:岡本多英子

岡本●いやしのみちの考え方として、「観光」と捉えるか「修行」として捉えるかといった観点の相違があるが、四国は遍路に対して特別な思いがあると思う。そういったことを考えると、ハード整備よりも、今後はソフト面での強化や関わる人の育成などが重要である。

栗飯原●行政と住民のいろいろな段差(意識・ペース・行動力・知恵など)を埋めることを大事にしてきた結果として現在の活動の効果が生まれていることを認識して、これからも行政と住民の段差を埋めることを行政課題として捉えていきたいと思っている。

会場からの質問3

活動を継続するポイントは?

坂東●メインルートの他に、北ルート、南ルートといったサブルートがあるので、サブルートの下見ハイキングなどを行い、各部会で必要な整備を行っていききたいと考えている。また、統一性のある「いやしのみちマップ」についても検討していききたい。そして、他地域との交流を深め、徳島だけでなく四県にも繋いで行けるよう活動を継続して行きたい。



パネリスト:坂東正文

情報交流会に参加しての感想

- 登録4地域の発表により、いやしのみちづくりの活動がわかりやすく説明され、大変有意義でした。
- いやしのみちづくり活動が、地域活動団体の情報交流の場として役立っていることや、官民一体、地域住民主導型の活動であることがわかりました。
- オンリーワン徳島にふさわしい活動として、もっと多くの人に参加してもらいたいと思います。

「四国いやしのみちづくり」に期待すること

- 県下全市町村に広がることを期待しています。
- お遍路さんだけでなく、地域の人からも互いに心癒される活動として継続してほしいと思います。
- 交流や協働を楽しみながら、徳島県内から連携し、四国全域と連携できる活動として展開されることを期待します。
- 四国八十八箇所を結び道として世界遺産に登録できるまでに発展することを願います。

平成16年度の取り組み-3

四国いやしのみちづくり推進交流会の報告

四国いやしのみちづくりのより良い推進を図るために、登録4地域の関係者と徳島県行政担当者、まちづくり専門家等による推進交流会が開催されました。



■開催概要

日時:2005年1月19日(水) 13:30~16:00
 場所:徳島県庁10階 1005会議室
 参加者:登録4地域9名・徳島県4名・専門家等5名
 プログラム:登録4地域の活動報告・推進活性化の意見交換

推進活性化のための意見交換まとめ

推進活性化のための意見交換は、参加者が2つのグループにわかれて、ワークショップ方式により実施されました。



【Aグループ】(意見抜粋)

活動の良かった点	活動の苦労した点・課題	活動推進のアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ●様々な人との連携ができた ●多くの人たちそれぞれの「へんろみち」への思いを再認識できた ●参加者のアイデアを引き出した ●ブロック別検討会委員が引き続き活動を行っている ●地域で作ったベンチを役場前に置いていることなどがPRに繋がっている ●お遍路さんとの交流も生まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ●会議の時間取りに苦労している ●財政面での苦労がある→予算が厳しく資金に限りがある ●作業面での天候との戦いがあった ●観光資源としての遍路道と宗教的な癒される道との矛盾→整備の捉え方や接点を上手く調整する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●サインに余白を設けて何にでも使えるお知らせコーナーを作る→寄付の受付、スポンサー募集、広報用に活用するなど ●トイレ、休憩所にミニ掲示コーナーを設け、地元美術愛好家の作品を掲示する ●いやしのみちマップを登録4地域で統一させて、次の地域に繋げてはどうか

【Bグループ】(意見抜粋)

活動の良かった点	活動の苦労した点・課題	活動推進のアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア団体の協力があつた ●地元石積み指導者がいた ●既存の組織があつた ●頑張った事務局がいた 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動のための継続的な資金が必要である ●今やっているボランティア活動で手一杯のところが多い ●地域の人の高齢化が課題である ●ボランティアグループの組織づくりが課題である→現在活動組織が固定されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織を繋ぐ知恵を出し合う→今ある組織同士の連携に気づいてもらうことが大切である ●組織を繋ぐことにより現在のボランティア活動の限界を超えることができる ●活動する覚悟を決めてかかれる人が必要である→核になる人はいる→核になる人は少人数でよい